

## [成果情報名]ツバキ、ツツジ苗のEU向け輸出のための線虫防除による生育障害対策技術

[要約] 植木苗のEU向け輸出のための線虫防除（根洗い+薬剤処理）は、ツバキでは輸出前年度の8～10月、ツツジでは12月に行う。防除後は遮光条件下で管理し、ツバキでは、同時に4～8週間のミスト灌水を行うことで生育障害を抑制できる。

[キーワード] ツバキ苗、ツツジ苗、輸出、線虫防除、生育障害

[担当] 福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター 苗木・花き部

[代表連絡先] 0943-72-2243

[分類] 研究成果情報

### [背景・ねらい]

EU向け輸出の植木苗においては、有害線虫の寄生が認められていないことから、苗の根洗いを行い、線虫防除薬剤に所定の時間根部を浸漬すること（以下「線虫防除」とする）が必須となっている。しかし、線虫防除による葉の萎凋、枝枯れ、枯死等、薬害の発生が問題となっている。

そこで、高品質な植木苗を安定的に輸出するため、ツバキ、ツツジ苗を用いて、生育障害の少ない線虫防除技術を開発する。

### [成果の内容・特徴]

1. 輸出作業スケジュールについて、植木苗の線虫防除は、ツバキ苗では輸出前年度の8～10月、ツツジ苗では12月に実施し、その後、ピートモス（pH無調整ピートモス1ℓあたり2gの炭酸苦土石灰を混和）を用土として鉢上げし、50%遮光条件下に設置する。灌水管理は、ツツジ苗では設置時より株元に手灌水で行うが、ツバキ苗では、設置時当初は、頭上から6～18時の間、1時間毎に2分間の（井戸）水のみスト灌水を行う（図1）。
2. ツバキ苗では、防除により1年を通して枯死株が発生するが（図2）、12月は翌年の新梢伸長不良、4月は新梢の枯死が起こるため（データ略）、8～10月に実施する必要がある。
3. ツバキ苗における枯死株の発生抑制には、防除後のミスト灌水が手灌水と比べ枯死株率が低く有効で（図3）、ミスト実施期間は4～8週間が、生育障害株率10%と2週間以内と比較して低い（図4）。
4. ツツジ苗の防除による枯死株は、いずれの時期においても少ないため、防除適期は、作業が容易な12月である（図2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 県内植木苗のEU向け輸出の促進が図られ、需要拡大による生産者の所得向上が期待できる。
2. 実際の輸出に際しては、植物防疫所の輸出入条件詳細情報（<https://www.maff.go.jp/pps/j/search/detail.html>）を参考にするとともに、最寄りの植物防疫所で最新の検疫条件（線虫、対象病害虫、輸入許可証、栽培地検査の要否）を確認する。
3. 2～3年生植木苗を用いた結果である。
4. 線虫防除薬剤は、線虫の種類によって防除効果が異なるため、想定される線虫の種類に応じて複数の薬剤を使用する必要がある。
5. 薬剤の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し実施すること。

[具体的データ]

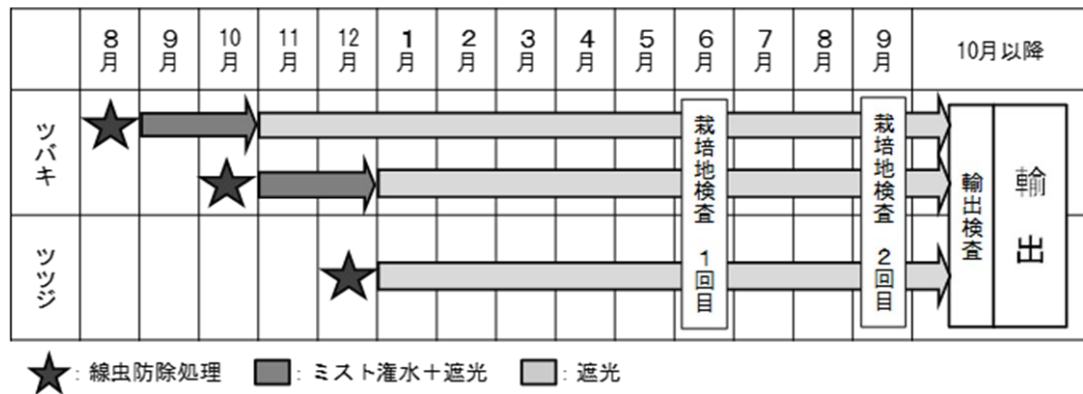


図1 ツバキ、ツツジ苗の輸出作業スケジュール

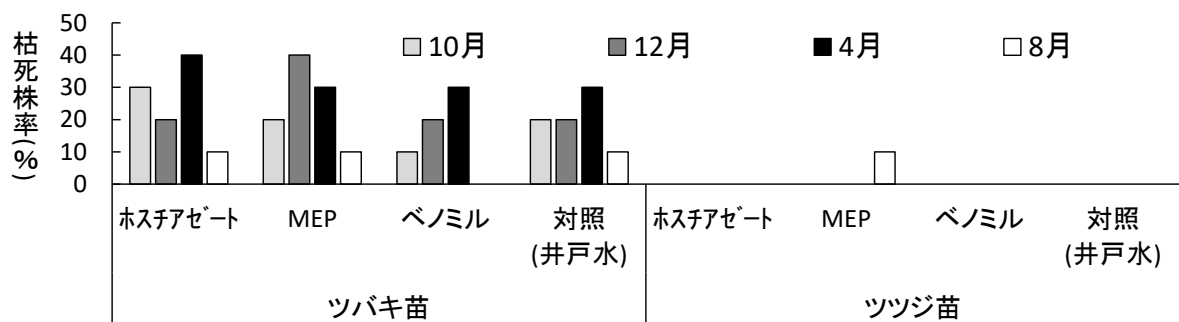


図2 線虫防除の時期および薬剤がツバキ、ツツジ苗の枯死株率に及ぼす影響 (n=10、枯死株率は線虫防除4か月後に調査) (2016、2017年)

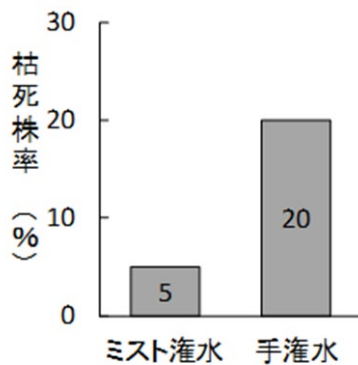


図3 ツバキ苗における線虫防除後の灌水方法が枯死株率に及ぼす影響 (n=20、MEP 8月処理、ミスト期間は4週間) (2017年)

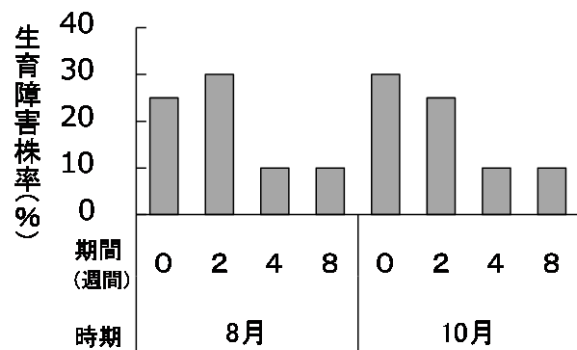


図4 ツバキ苗における線虫防除時期、防除後のミスト灌水期間(週間)別の生育障害株率 (n=20、MEP 処理) (2018年)

(福岡県農林業総合試験場)

[その他]

予算区分：革新的技術開発・緊急展開事業、地域戦略プロジェクト

研究期間：2016～2018年度

研究担当者：近藤孝治、瀬戸山修仁、井樋昭宏、巢山拓郎、國武利浩

発表論文等：近藤ら (2017) 園芸学研究第16巻別冊2